



非住宅部門
事例

14

空き家利活用コンテスト2023 優秀賞

藍染工房ちずぶるー

智頭宿の空き家に新たな命を吹き込んだ
Made in Chizuの空間づくり



築50年、約8年間居住者のいなかった智頭宿の空き家を再生し、「藍染工房ちずぶるー」が誕生した。天然染料を用い、デザインから染色までを手掛ける工房は、老朽化した旧工房からの移転を機に、智頭町の空き家バンクと町の支援事業を活用し、町内業者の協力で地域密着の空間づくりが実現した。智頭宿の歴史ある町並みに溶け込むよう、白と青、木を基調とした開放的な設計が施され、通りに面したファサードから作業風景が見える工夫も。薪ストーブは暖を取るだけでなく、染液に使う灰を再利用するなど、循環型の考えを反映。また左官アートの壁面が訪れる人々を魅了する。施主自ら壁を解体したり、廃園保育園のシンクを活用するなどコストカットにも工夫を凝らした。光の調整や動線設計も練り直し、作品制作と接客を両立できる空間を実現した。藍色が映えるこの工房は、智頭宿の魅力を発信する観光拠点として、地域の新たな流れを生み出している。歴史を未来へつなぐ営みが、ここから始まっているのだ。

お茶を飲み集まったり、気がつけば庭を剪定してくれたり、地元の人々が集まり交流が生まれる場所でもある「藍染工房ちずぶるー」。工房の入口はサッシを取り払い、開放的なガラスドアに変更。外からも見やすく、工房の奥に続くアーチ型の可愛いショップ入口がさらに魅力を引き立てている。



左官職人にちずぶるーをイメージして作ってもらった左官アート。味のある仕上がりでオーナーのお気に入り。



人が集まる大開口のちずぶる一入り口にあるストーブ。冬には集まった人々をやさしく温めてくれる。



もともと使っていた風呂おけに合わせて作ってもらった染棚。高さが絶妙で使いやすいと好評。



座卓をテーブルとして生まれ変わらせ使用。経年の自然素材と壁の組み合わせが空間にマッチしている。





畳部屋を改装し、商品保護のため完全遮光を施した。押し入れ部分をフィッティングルームにするなど、リノベーションで新しいアイデアを盛り込んでいる。

[DATA]



- 【所在地】八頭郡智頭町智頭555 【構造】木造2階建て
- 【築年月】昭和48年
- 【改修後の用途】工房+店舗
- 【間取り構成】個室7室・キッチン・階段室・風呂1カ所・トイレ2ヶ所
- 【改修期間】2022年12月～2023年3月
- 【改修費用】約815万円(設計等費含む)
- 【設計者】プラスカーサ